

# 研究者紹介

本研究を中心になってすすめる、札幌市立大学デザイン学部のスタッフの自己紹介です。

## 多世代・多セクター・多コミュニティの交流

統括



多世代・多セクター・多コミュニティが交流し、個性を磨き合うことで、人の社会はイキイキと輝き出すはず。そのための有効なプログラムとマネジメントの方法論を構築することが、本プロジェクトの狙いです。

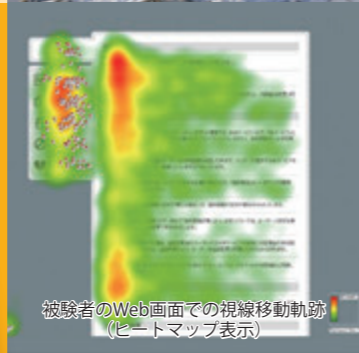
運見 孝  
ハスミ タカシ  
(研究代表者)



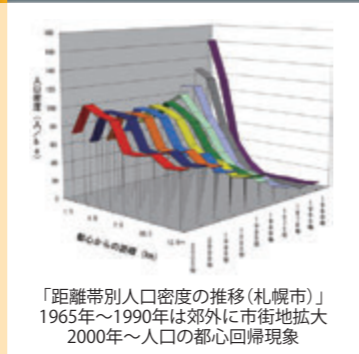
北海道大学附属医院  
「アート＆セラピー」による  
療養環境改善プロジェクト (ADP)  
作品「co-more-bl」(2007)



円山動物園リニューアルプロジェクト  
(2006年～)



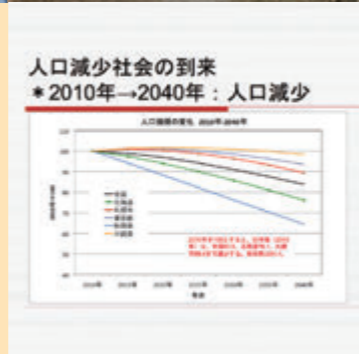
被験者のWeb画面での視線移動軌跡  
(ヒートマップ表示)



「距離帯別人口密度の推移(札幌市)」  
1965年～1990年は郊外に市街地拡大  
2000年～人口の都心回帰現象



炭鉱の記憶を掘り起す  
「幌内布引アートプロジェクト」  
(2009年)



人口減少社会の到来  
\*2010年→2040年：人口減少



統括

酒井 正幸  
サカイ マサユキ  
(研究分担者)

## 「しあわせ」目指して手をつなごう

都市化によって便利にはなったものの、失われたものも少なくありません。人々のきずな、ふるさとの原風景、脈々と継承されてきた歴史と文化、などなど。地域に残っているこれらの財産と、都会の利便性をともに享受してみんなで「しあわせ」になろうという、なんともぜいたくなプロジェクトが始まりました。みなさまもぜひ一緒に「しあわせ」を目指しましょう！

地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班

私の研究キーワードは、数理統計手法による感性情報の評価・分析、情報デザイン、デザインの価値測定・分析です。本事業では、札幌市や道内市町村の住民意識・暮らし満足度などの調査分析を通して、地域への愛着・希望を探りたいと考えています。

## 住民の地域への愛着・希望を探りたい

城間 祥之  
シロマ ヨシユキ  
(研究分担者)



地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班

中原 宏  
ナカハラ ヒロシ  
(研究分担者)

## 今後のまちづくりの視点は、空間・時間・人間の多様性

「人がまちを創り、まちが人を創り育てる」が信条です。人口減少時代のまちづくりでは、従来の拡大・拡散型から凝縮・成熟型への大きな方向転換が求められています。新しい計画理念や手法に関する研究を、地域と連携して推進します。

## 炭鉱の記憶をキーワードに炭鉱遺産を活用したアートによる地域創成

これまで「赤平炭鉱アートプロジェクト」(2004)、「幌内・布引アートプロジェクト」(2009)、「夕張清水沢アートプロジェクト」(2011)、「奔別アートプロジェクト」(2012)を開催してきました。(2013年に再度、奔別)一連のアートプロジェクトは、南北80km・東西30kmにおよぶ広大な空知産炭地全域の主要な炭鉱遺産を活用した地域創成を組織的計画的な視座で実施しております。

上遠野 敏  
カトノ サトシ  
(研究分担者)



原 俊彦  
ハラ トシヒコ  
(連携研究者)

## 人口減少と超少子高齢化は止まらない。だからこそ！

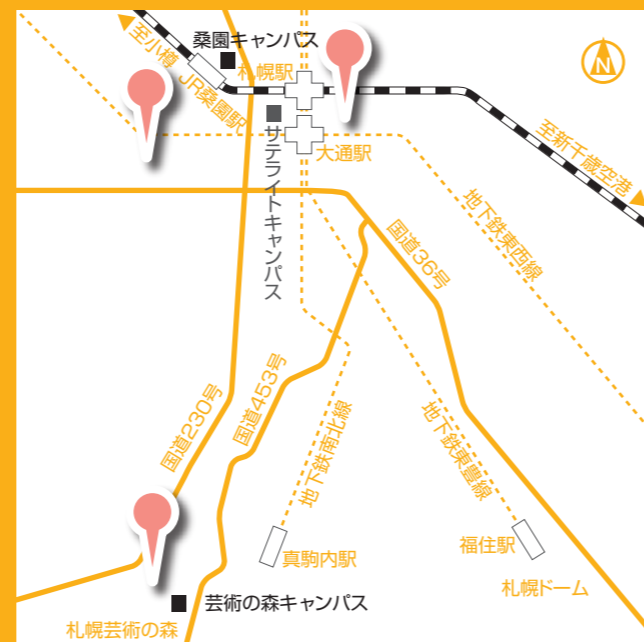
長年にわたり地域人口の研究をしてきましたが、「人口減少と超少子高齢化は止まらない」というだけではダメだと思っています。「だからこそ、できること、すべきこと」をいっしょに考えてみませんか？

地域創成先行事例分析班  
暮らし満足度定量化手法開発班

# 研究フィールド

札幌市は全国で5番目の人口を有する北海道最大の都市。本事業では、芸術文化活動の拠点である札幌芸術の森にある「芸術の森キャンパス」を中心に、その活動を行ないます。

また、既に交流関係にある地方市町村をはじめ、これから本事業にご賛同頂ける市町村の皆様と活動をしていきたいと考えています。



札幌市内



芸術の森キャンパス



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科  
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目  
Tel.011-592-2300(代表) Fax.011-592-2369  
www.scu.ac.jp

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)  
タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究  
(研究経費:34,100,000円)  
研究代表者:運見孝



日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)

# タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究

学問化  
評価  
発見

大都市

魅力の共有

地方市町村



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

本研究を中心になってすすめる、札幌市立大学デザイン学部のスタッフの自己紹介です。

## 研究推進班



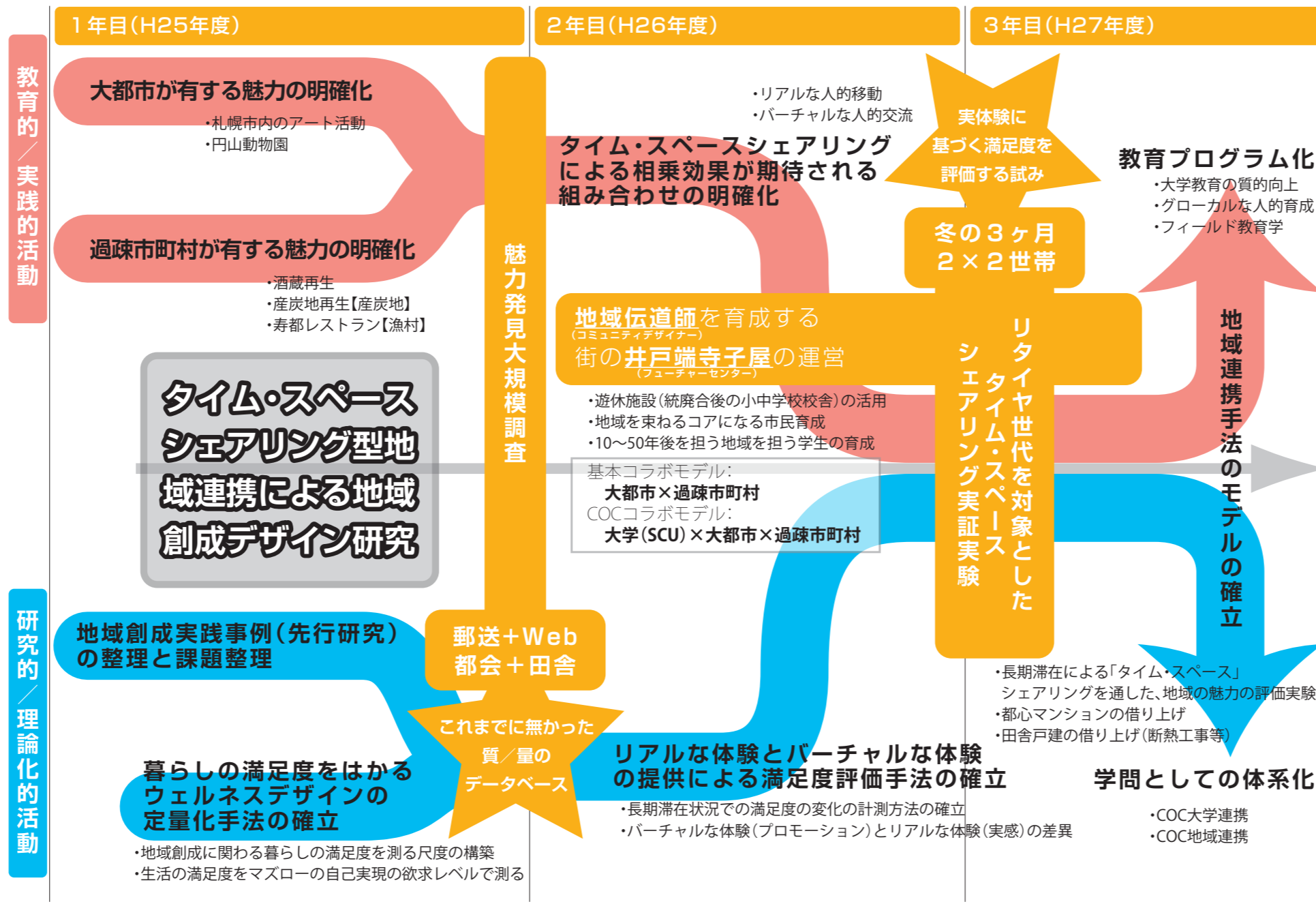
## 研究概要

本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持、および魅力創出のための手法の構築を目的とするものです。地域衰退の先行事例になる可能性のある北海道地域の地方市町村と大都市を対象に、定量的

な調査分析を行い、それぞれの魅力と課題を明らかにします。この分析結果を踏まえ、井戸端寺子屋の運営を通じ、地域伝道師を育成し、かつ、地方市町村と大都市を相補・連携させる「タイム・スペースシェアリング」手法による地域創成

活動の実証実験を行います。また、「暮らしの満足度(ウェルネスデザイン)」評価によってこの実証実験の効果検証を行ないます。さらに、地域創成のための社会・文化・経済的の支援に関する学問領域を「地域創成デザイン学」と名付けて体系

化し、関連教育プログラム構築・実践を行います。将来的には、本学のみならず本研究を核として周辺大学との連携も推進し、「北海道地域創成デザイン・コンソーシアム」の結成を目指します。



## 地域創成デザイン学の確立 + 北海道地域創成デザイン・コンソーシアム結成



**感性や認知を科学的に解明したい**

感性や認知は心豊かな生活を送るために必要な脳の機能です。その仕組みの解明が必要ですが、複雑さゆえ、科学的な研究は簡単ではありません。基本的な事から少しずつ解明していきたいと思えます。

石井 雅博  
イシイ マサヒロ  
(研究分担者)



**空間デザイン作品の制作を通じて、地域の風景を見直し、あらたなバリューを育みたい**

地域にはさまざまな魅力が潜在しています。こと風景に限っても同じことが言えます。空間に関するデザイン作品、環境芸術作品を制作・設置し、普段気付きにくい地域の風景の魅力を知るきっかけの場づくりを試みます。

山田 良  
ヤマダ リョウ  
(研究分担者)



**住まい手主体の「環境創り」こそ地域創成デザインの鍵**

「健康で心地よい住まいの環境とは何か？」を、物理環境・住まい手の生理、心理の面から明らかにしています。住まい手自らの体感が伴う「環境創り」こそ、魅力ある暮らしには不可欠なことと考えています。

齊藤 雅也  
サイトウ マサヤ  
(研究分担者)



**風景からの故郷(くに)づくり**

どんな地域にも、誇れる宝が埋もれています。そんな宝との特別なつながりが、地域を「故郷」へと変えていきます。住み手にとって当たり前になっている地域の誇りを掘り起こし、風景として共有することが故郷(くに)づくりの第一歩です。

上田 裕文  
ウエダ ヒロフミ  
(研究分担者)



**"Be Happy!"のしくみを生み出したい**

「環境心理学」と「建築計画」を専門にしています。人々のワクワクを科学的に理解し、地域の資源発見や人と人を繋げるお手伝いをしています。寿都町のコミュニティ・レストラン「風のごはんや」(http://kazegohan.sakura.ne.jp)をプロデュースしました。

片山 めぐみ  
カタヤマ メグミ  
(研究分担者)



**日常生活の偽りのない普通のキモチを測りたい**

私の研究キーワードは「感性評価」です。簡単に言えば、製品やサービスに対する「好き嫌い」を測ることです。本事業では、暮らしの満足度を対象に、日常生活を送る人の素直な気持ちを測る手法の開発をしたいと考えています。

柿山 浩一郎  
カキヤマ コウイチロウ  
(研究分担者)



視線計測を用いた被験者の興味度の推移図